

「紅茶」「緑茶」「ウーロン茶」は、実は同じ茶葉から作られる

リビングサービス課 北田 祥一

今回は「紅茶」「緑茶」「ウーロン茶」の違いということで、お茶の雑学について紹介します。

「紅茶」「緑茶」「ウーロン茶」には味や色、香りといった違いがありますが、実は同じ茶葉から作られているのです。原料となる茶葉は同じなのに、どのようにして「紅茶」「緑茶」「ウーロン茶」を分けていると思いますか？

「紅茶」「緑茶」「ウーロン茶」の違い

それではさっそく「紅茶」「緑茶」「ウーロン茶」の違いについて解説していきます。

【緑茶(不発酵茶)】

緑茶は茶葉を全く発酵させていない不発酵茶であり、日本人に最も飲まれているお茶です。茶葉を摘んでから新鮮なうちに蒸して揉んでを繰り返し、最後に乾燥させて完成となります。

なぜ茶葉を蒸すのかというと、茶葉は放っておくと発酵が始まってしまうためであり、蒸気で蒸しあげることによって発酵を防いでいるのです。また、中国＝ウーロン茶のイメージがあるかもしれませんが、実は中国でも一番飲まれているのは緑茶なのです。

近年では日本の緑茶は海外でもよく飲まれており、ヨーロッパでは健康目的で飲む人も多くなりました。ヨーロッパでは紅茶と同じように砂糖を入れて、甘い緑茶にして飲むのが一般的となっています。

【ウーロン茶(半発酵茶)】

ウーロン茶は茶葉を半発酵させて作られるお茶です。

なぜ半発酵のお茶が出来上がったのかというと、お茶の葉を竹籠に入れていたら発酵してしまい、その時に偶然発見されたとされています。

ウーロン茶は発酵が進んでいることから、淹れると茶色になりますが、ウーロン茶よりも軽く発酵させたものに「白茶」というお茶があります。白茶も半発酵茶の一種ですが、発酵具合が軽いため、色はウーロン茶と違って緑色をしています。

一時期、日本ではウーロン茶がたくさん飲まれていましたが、現在では需要が低下してきています。中国ではウーロン茶が健康に良いということで注目を集め、日本で製造されたウーロン茶も中国へと輸出されています。

【紅茶(発酵茶)】

茶葉を完全に発酵させて作られたのが紅茶です。

お茶の中でも世界で最も親しまれているのが紅茶であり、世界の様々な地域で生産されています。

まずは「萎凋（いちよう）」と呼ばれる作業で水分を取り除き発酵させ、より発酵が進むように茶葉を揉みます。その後、茶葉が固まるためほぐし、更に発酵させて、乾燥させれば紅茶の完成です。

淹れた時に他のどのお茶よりも濃い茶色となるのは、完全に発酵が完了し、茶葉が酸化しているからなんですね。また、紅茶＝ヨーロッパというイメージがあるかもしれませんが、元々は中国が発祥のお茶なのです。

ヨーロッパが産業革命を迎えた際に多くの労働者が必要となりましたが、当時は生水を飲むとお腹を下すことからお湯を飲んでいました。

しかし、味の無いお湯は不味かったため、味も良く、いい香りのする紅茶が中国から輸入され、ヨーロッパへと紅茶が広まっていったのでした。

以上が「紅茶」「緑茶」「ウーロン茶」の違いについてでした。
※提供している情報には諸説ある場合があります。ご了承ください。



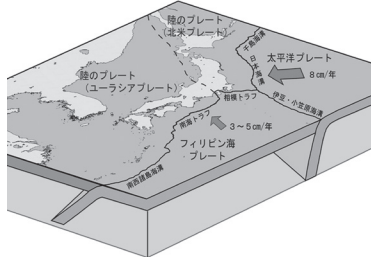
参照: <https://ddnavi.com/serial/mainichizatsugaku/>

南海トラフ地震の話

総務課 福島 秀明

8月8日に、日向灘の地震を受け、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。その後、地震活動に特段の変化を示す観測がされていないという事で、8月15日には南海トラフ地震臨時情報の特別な注意の呼びかけを終了しました。

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側海域及び土佐湾を経て日向灘沖にかけてのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を南海トラフといいます。この南海トラフ沿いのプレート境界では、海側のフィリピン海プレートが、陸側のユーラシアプレートの下に一年当たり数センチの速度で沈みこんでいます。その際、プレートの境界が強く固着して、陸側のプレートが地下に引きずり込まれ、ひずみが蓄積されます。陸側のプレートが引きずり込みに耐えられなくなり、限界に達して跳ね上がる事で発生する地震が「南海トラフ地震」といいます。



南海トラフ地震は過去に大きな被害をもたらしてきた大規模地震で、これまで100年から150年の周期で大きな地震が発生しています。1707年の宝永地震では駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したり、マグニチュード8クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したりしています。前回の南海トラフ地震は、昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年）が発生していますが、それから80年経過しています。

マグニチュード8～9の大規模地震が今後30年以内に発生する確率は70～80％といわれています。南海トラフ地震が発生した場合、静岡県から、宮崎県にかけて一部は震度7となる可能性があるほか、それに隣接する周辺地域では震度6強から6弱の強い揺れになると想定されています。また、関東地方から九州地方にかけて太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波の襲来が想定されています。

想定されている最大規模の地震が発生すると、全国で約32万人、三重県内でも5万3千人が亡くなると推計されています。伊賀市では、震度6弱の地震が起これと予測されており、被害想定は建物の全壊1,900棟、死者100人、負傷者1,000人と推計されています。

南海トラフ地震臨時情報が出た時は不安に感じましたが、何も起こらず、取下げられました。喉元過ぎれば熱さを忘れる、という諺がありますが、同じようになっていないでしょうか。地震臨時情報が出た時には、新聞やテレビ等が騒ぎ、その事ばかり報道されますが、解除になった途端に、騒ぎが治まります。私たちも、地震臨時情報が出た時は、不安になり、非常食用食料等を準備しますが、解除になったことで、安心してしまい、地震の事を忘れてしまいます。

南海トラフ地震臨時情報は、今回は取り下げられましたが、大地震が起こる可能性が無くなった訳ではありません。地震は必ず起きます。20年、30年先かもしれませんが、明日起こるかもしれません。地震に備えて、被害を最小限にするためにも、普段から備えていきたいものです。

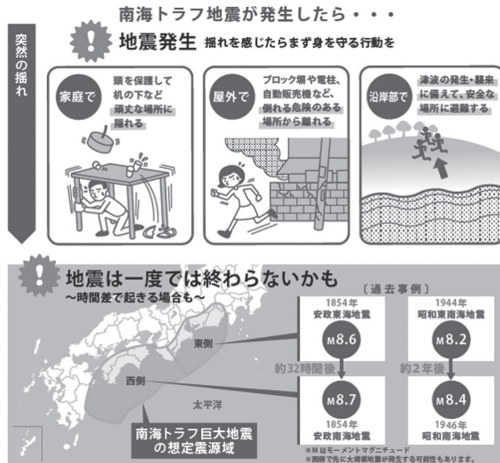
- 家具などの転倒防止、家の耐震対策などの安全を確保する。
- 安否確認の方法など家族で決めておく。
- ハザードマップなどで、危険箇所や避難場所の確認をする。
- ローリングストックを活用し、1週間程度の備蓄食糧等を確保する。
- 地域の防災訓練に積極的に参加する。

ローリングストックとは、普段の食べ物や日用品を少し多めに購入しておき、古いものから順に消費し、消費した分を買い足す事で補充しながら備蓄していく方法です。

備蓄食糧等は最低でも3日分は用意しておきたいものです。飲料水は一人1日3Lが目安です。ご飯、ビスケット、乾パンなどのほか、タンパク質がとれる魚介や肉類の缶詰もおすすめです。また、非常用のトイレの用意も忘れずに備えておきましょう。食事はある程度は我慢できますが、トイレは我慢する事はできません。

家族同士で安否確認の方法を決めておくことも重要です。日頃から安否確認の方法や集合場所を事前に話し合っておきましょう。災害時には携帯電話は繋がり難くなります。災害伝言ダイヤル（171）や災害伝言板（<https://www.web171.jp/>）の使い方も知っておきたいものです。

地震の発生を止める事はできませんが、普段から備えていくことで、被害を抑える事はできます。ひとつひとつの行動が、自分の身は自分で守る、家族を守る事に繋がるのです。



参考: 伊賀市ホームページ <https://www.city.iga.jp> 気象庁ホームページ 気象庁 Japan Meteorological Agency (jma.go.jp) 内閣府防災情報 南海トラフ地震臨時情報が発表されたら! : 防災情報のページ - 内閣府 (bousai.go.jp)